国際科学史技術史・科学基礎論連合
IUHPST
/科学史技術史部門DHST/

International Union of History and Philosophy of Science and Technology / Division of History of Science and Technology

IUHPST…科学・技術の発展史や哲学・論理・方法、社会との関係を研究する国際組織

➡ DHST…科学・技術の歴史・発展諸要因や社会関係を解明

加盟国：正規42ヶ国（バルト３国を１国とする）、準加盟７ヶ国
傘下団体：他UnionとのInter-Union６、歴史分科会12
DLMPST との共同２、科学史技術史国際団体３

2024年11月
日本学術会議　史学委員会IUHPST分科会

IUHPST/DHSTの目的と国際組織

国際哲学・人文科学会議

CIPSH

国際学術会議

ISC

日本学術会議

IUHPST

1956IUHPS
2015IUHPST
（名称変更）

IUHPSTの目的

1 科学史と科学哲学の（研究者、組織、学会等々）の連携強化
2 資料収集
3 研究発展のための諸々の処置
4 国際会議の開催
5 科学の統一や諸分野の連携
6 個別分野のディシプリンでの諸問題、方法にもとづいての交流

科学史技術史部門
DHST
1929国際科学史会議
1947IUHS
1955DHS設立
2013DHST（変更）

DHSTの目的

1 個人、組織、国等の研究協力連携
2 歴史的重要物文書を収集、保存に供する
3 科学史技術史教育研究推進
4 国際規模での学術集会開催、支援
5 他分野の人類知との連携、gender平等、文化多様性

科学基礎論部門
DLMPST
1949国際科学哲学連盟
1955DLMPS設立
2015DLMPST

42ヶ国、準７ヶ国

６国際団体

38ヶ国、準4ヶ国

12国際団体

IUHPST/DHSTの組織と運営

他の専門分野と連携して人類知を推進

- 総会 …全会員、国際共同組織。
- 4年毎（2021開催）

学術大会
2021第26回大会

事務局
パリ

評議会
数回/年

会長、次期会長、第一、第二副会長、事務局長、事務局次長、財政担当、アセッサー６

他の国際学術団体との共同組織

6 Inter-union Comm.

12 Historical Comm.

2 Inter-Div.Comm.

3 Scientific Sections

他分野
国際学術団体

運営の４側面

◎DHSTの活動
◆学術研究（大会、シンポジウム、個別分野研究会）
◆若手育成、論文賞
◆科学と社会関連問題
Manchester Manifesto
Respectful Behavior Policy

◎他学術国際組織との共同研究組織運営
◆Inter-Union Commissionなど
◆他分野の研究発展と連携

◎DLMPSTと合同で構成しているIUHPSTの2年毎の運営

◎上部団体との連携
◆ISC 加盟（IUHPSTとして）
…主として自然科学社会科学
◆CIPSH 加盟
…人文科学哲学

DHSTの事業と日本への影響

DHST最近の学術的成果

国際的規模での学術集会
- リオ大会での科学技術発展の「南北格差問題」
- プラハ大会での「科学発展での巨人と小人」

個別学術研究の進展－国際規模での問題分析
４年毎の学術大会・不定期シンポジウムなど
学術集会

日本への影響

科学政策への重要な示唆
- ワクチン供給問題
- 配分問題

偏った科学史観の是正
人類的課題での共同研究

持続的発展のための基礎科学年の取組 ―― 基礎科学振興の方策

DHST最近の社会的取組

研究者の性格差解消、文化多様性
- DHST憲章への明記
- 役員にgender and cultural diversity championの導入
- Respectful Behavior Policy（尊重しあえる行動の指針）の規定
- ISCと科学政策、ジェンダー問題などで協力

日本への影響

- 科学祖研究組織における示唆
- 地球気候変動問題への取組
- 科学者と社会問題への関わり方への示唆

日本学術会議・日本の研究者のDHSTへの貢献

組織運営への人的貢献

- 2021-25 橋本毅彦（東京大学名誉教授）：第一副会長、ICHST国際プログラム委員
- 2021-25 菊池好行（愛知県立大教授）：化学史・分子科学史国際委員会副会長
- 2021-25 三村太郎（東京大学准教授）：イスラム社会科学技術史国際委員会副会長
- 2024-27 塚原東吾（神戸大学教授）：東アジア科学技術医学史国際委員会会長

＜組織運営での具体例＞

・評議会の日本での開催　・優秀博士論文の選定と表彰
・各分科会報告の監査　　・科学史科学哲学優秀論文選定

学術的貢献

- DHST傘下の各分科会への参加
- 4年に一回開催の国際科学史技術史会議（ICHST）参加
- 2023年にオンライン会議「科学技術史の未来／未来のための科学技術史」開催

＜国際科学史技術史学会への日本人の参加・論文発表＞

2013　マンチェスター　50人
2017　リオデジャネイロ　30人
2021　プラハ（オンライン）30人
2023　グローバル・デジタル・フェスティバル（オンライン）